

蚕都 上田

(明治～昭和)
市街図

歴史・文化財マップ

<http://www.santo-ueda.jp/>

真田氏の城下町であった上田市は、北国街道の宿場町でもあった。呉服屋などの有力な商家や繭糸商が海野町、原町、柳町などに軒を連ねていた。江戸時代後期以降の蚕種業、製糸業の発展によって、市制を施行した上田市(1919年～)は、蚕都と呼ばれるようになった。市街地の周りには製糸業を営む常田製糸場、小宮山製糸場、長峯製糸場など7つの工場や上田蚕種株式会社、小宮蚕業学校、上田蚕糸専門学校が立地していた。また上田駅前には上田倉庫(諏訪倉庫)、上田城址には長野県蚕業試験場上田支場があった。さらに第十九国立銀行をはじめ、信濃銀行(上田銀行)など蚕糸業を支えた多くの銀行が立地していた。これらの銀行は製糸家や繭糸商、有力商人によって支えられていた。民衆のための娯楽施設が数多く建てられ、市街地と養蚕や製糸業の盛んな塩田、丸子、真田を結ぶ鉄道の開設により、市街住民だけでなく製糸女工など近郊から訪れる多くの人々で賑わった。

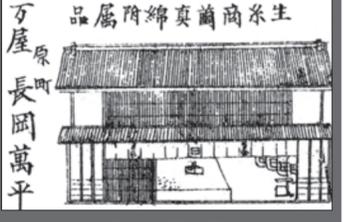


生糸繭商 田中忠七
「萬忠」の名で知られた繭糸商。その財力で「大神宮」を寄進した。

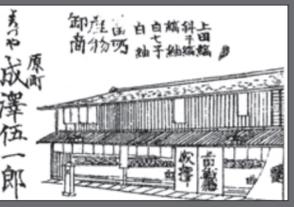
信陽館製糸場
明治22年(1889)繭糸商長岡万平が建てた上田最初の器械製糸場。操業当初より蒸気機関を採用するなど上田・小宮地方の製糸業をけん引した。大正6年(1917)より小宮山製糸場。(現武田味噌工場)



繭糸商 小宮山滝兵衛・善四郎
信陽館製糸場を引き継ぎ、小宮山製糸場・再綿場信全社を運営した。(現そば屋おお西)



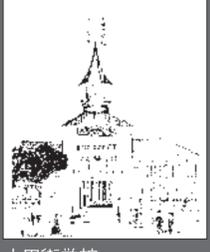
繭糸商 万屋 長岡萬平
信陽館製糸場を設立した。



呉服商 万屋 成澤伍一郎
「万伍」といわれた江戸時代から豪商として知られた。上田銀行の頭取をつとめ、上田市長として上田の発展に貢献した。



第十九国立銀行
佐久・上田の豪商によって明治10年(1877)に設立された国立銀行。危機の「片倉製糸」に融資し、岡谷・諏訪の製糸業の発展と軌を一にして発展した(現、十二銀行)。



上田街学校
もともと庶民の子弟教育のために建てられた学校。明治11年(1878)、明治天皇の行在所として西洋風の建物に改められ、後に上田女学校として利用された。街の中心地(現上田商工会議所)にあった同校は上田のシンボルでもあった。明治31年(1898)焼失。(現上田東高校)。



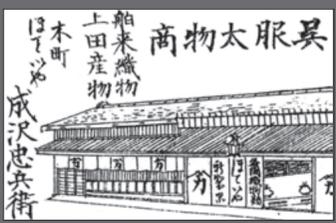
小宮蚕業学校
明治25年(1892)三吉米熊校長で丸掘で開校。明治33年(1900)権現坂上に移り、県立学校となり、大正14年(1925)現在地に移転した。養蚕指導員など多くの人材を全国に輩出(現上田東高校)。



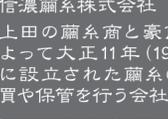
「万伍」の蔵
鬼瓦の大きさと風格に、かつての財力が偲ばれる。



丸子鉄道 上田東駅
丸子鉄道(後に上田丸子電鉄丸子線)の起点駅。大正14年(1925)開業。上田市と製糸業で栄えた。



呉服商 ほていや 成沢忠兵衛
海野町にデパート「ほていや」を営するまでに発展した。



信濃繭糸株式会社
上田の繭糸商と豪商によって大正11年(1922)に設立された繭糸の売買や保管を行う会社



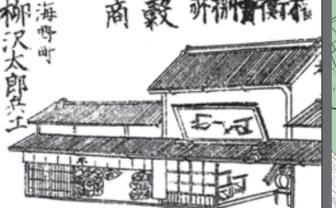
三吉米熊胸像
小宮蚕業学校(明治25年(1892)創立)の初代校長。上田蚕糸専門学校教授もつとめた。日本の蚕糸業の近代化に多大な貢献をした。(上田城跡公園内)

長野県蚕業試験場 上田支場
県立の原蚕種製造所。質の良い蚕種製造・配布を行い、品質の統一を図った。



旧上田市立図書館(旧石井鶴三美術館)

大正4年(1915)、上田男子小学校明治記念館として建設。アールヌーヴォーの流れをくむ建築。大正12年(1923)から昭和45年(1970)まで上田市立図書館。蚕都の経済力を背景に革新的・先取的な気風が支配した時代を今日に伝える文化遺産。



穀商 柳沢太郎兵衛
上田の旧本陣で、上田銀行などいくつかの会社の起業に貢献した。

信濃蚕種同業組合・小宮蚕種同業組合
明治22年(1889)藤本善右衛門・工藤善助・田中忠七らによって設立され、組合法により明治33年(1900)小宮郡蚕種同業組合となった。



上田倉庫・諏訪倉庫
銀行家と上田・丸子の製糸業者によって設立された最初の営業用倉庫。(現みずび館(飯島商店))



蚕神像(上田駅)
蚕都上田の大動脈・上田駅で人々の暮らしを見守る女神像。作者は神川村(現上田市)の養蚕農家に生まれた芸術家中村直人。



旧小嶋合資会社
田沢炭鉱株式会社を営み、また上田ガス株式会社の経営に携わるなど、蚕都上田に活動の源となるエネルギーを供給した会社。



笠原工業常田製糸場
明治33年(1900)操業。熱心な誘致活動により岡谷から移転した器械製糸工場。5階建ての繭倉は蚕都上田のシンボル。(現笠原工業)



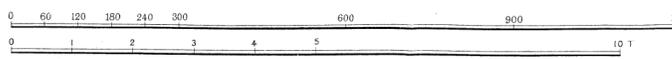
上田蚕糸専門学校の講堂
明治43年(1910)創立。養蚕科と製糸科が置かれ、全国から学生を集め、日本の蚕糸業を支える人材を輩出した。(現信州大学繊維学部講堂)



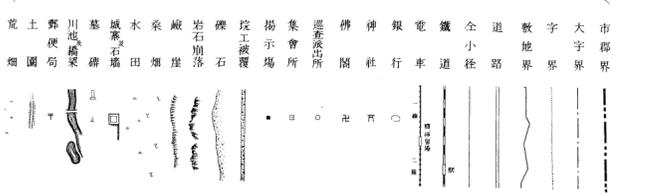
上田蚕種株式会社
上田・丸子の製糸業者と蚕種業者によって大正6年(1917)に設立された、蚕都を象徴する蚕種会社。

- 蚕糸関係
 - 製糸工場
 - 繭糸商
 - 蚕種製造
 - 蚕具商
- 蚕糸関連の工場
 - 蚕種製造施設
 - 倉庫業(繭)
 - 真綿加工工場
 - その他工場
- 有力商業
 - 商業地
 - 銀行
 - 有力商人
 - 醸造業
- 生活関連
 - 住宅地
 - 演芸劇場
 - 病院・医院
 - 旅社・ホテル
 - 銭湯(共同浴場)

- 公共施設(市役所・警察署・郵便局・県管施設)
 - 学校(小学校・中学校・高等学校・蚕業学校・蚕糸専門学校)
 - 寺社地
 - 桑畑
 - 水田
- 印のある建物は現存しています。



號記



参考

基図 『上田市全図』(上田市役所、昭和3年5月、縮尺1/6000)
資料 『信濃国上田全図』明治24年9月29日出版、編纂発行 町田波太郎、印刷高寺職三郎
『信濃国上田街 諸名家一覽表』
明治24年11月12日出版、編纂 町田波太郎 発行 長谷川武右衛門、(和洋活字並に付刷品) 大阪発所
『上田市街図』(丸子明細図)昭和6年3月1日発行、著者人馬場一、発行人馬場電松
『建築パース』大久保胤作画(平成19年)
その他画像は全て蚕都上田プロジェクト
制作 蚕都上田プロジェクトマップ部会
*このマップは平成21年度長野県地域発元気づくり支援事業により作成しました。

蚕都上田プロジェクト 市民・団体・大学・行政・企業・学校などが連携して「蚕都上田まちづくり・人づくり」を進める参加型プロジェクトです。
事務局: 〒386-1298 長野県上田市下之郷 658-1 長野大学地域連携センター内
連絡先: 電話&FAX 0268-38-7771
メール commit@po11.ueda.ne.jp
URL <http://www.santo-ueda.jp>

蚕室造りの民家が残る塩尻地区 (下塩尻・上塩尻・秋和)

塩尻地区で江戸時代前期(1663)から始まった蚕種業は、1800年には蚕種業の本場であった奥州を抜いて日本一の製造地となり、幕末には横浜港から大量の蚕種がヨーロッパに向けて輸出された。蚕種業の盛んだった塩尻地区には今なお多くの蚕室造りの家が立ち並ぶ。



桑園跡の段々畑・ゆうすげと蝶の里

桑を育てるために山の傾斜地に石垣を築いて作った段々畑の跡。現在はゆうすげなど草花が植えられ、花盛りには貴重な蝶が飛来する。野鳥観察もできる。

明治時代の蚕種販売ポスターが現存する!

ポスターの中に NAGANOKEN SHIOJIRI MURA と英語で記してある! 当時の蚕都の繁栄ぶりが想像できる貴重な資料。



明治29年(1896)蚕種販売するために販売先へ出した宣伝ポスター。当時のままの形で残る。(個人所蔵)



下塩尻
旧信越線北塩尻駅
蚕種製造家らの請願活動により大正9年(1920)5月開業。(現西上田駅)

北国街道
信濃道分岐で中山道と分かれ、海野宿・上田・善光寺を経て北陸街道の直江津につなぐ街道。蚕種業の最盛期には蚕室造りの家が立ち並び、今もその面影を残している。

小岩井織工
日本三大織の一つ上田紬の織元。江戸時代より蚕種製造を営み、昭和23年(1948)に織工を創業、上田の伝統工芸を今に伝える。

虚空山東福寺
上塩尻村民の信仰のより所であり、子弟の教育の場であった。日本有数の蚕種製造地・塩尻を築いた多くの人々がここで教育を受けた。

藤本蚕業歴史館
下塩尻を代表した蚕種製造家・藤本(佐藤)家に残る貴重な資料を展示・保存した歴史館。

塩尻小学校郷土資料館
養蚕・蚕種業に関する貴重な資料が展示され、児童の地域学習などに利用されている。

秋和
座摩神社
農耕・食物・養蚕の神である保食神を祀る。八十八夜に行われる例祭に養蚕の全盛期には、上塩尻だけでなく東北信地方で養蚕を営む人々が豊春祈願に訪れた。

蚕室造りの民家(平成14年8月~9月に現地調査) 地図上のアルファベットと番号は、平成14年(2002)に調査した蚕室造りの民家で、たくさんの方が当時の蚕産業に携わっていた事が分かる。



倉沢家
全国に名の知れた著名な蚕種家、倉沢運平。湯川の伏流水で蚕種を冷やした冷室やオンドル型の3階建て蚕室が残存。

上田電鉄 別所温泉駅
大正10年(1921)開業(当時は上田温泉電軌)。大正ロマン漂う駅舎が観光客を迎える。

しなの鉄道 大屋駅
地元だけでなく伊那や諏訪地方の蚕糸業関係者が中心となり、明治29年(1896)請願により停車場として開業。

郷蔵
郷蔵の2階に保管されていた大量の古文書のなかには、幕末維新期の歴史を新たに書き直すことにつながる貴重な資料も発見された。

飯沼区古文書保管庫
郷蔵で発見された1万点もの古文書を整理・研究するために飯沼区が建てた保管庫。

長瀬村の和紙製造
長瀬村は蚕卵原紙に用いる和紙の製造枚数で日本一となった。

手塚集落
かつて蚕種業が盛んだった塩尻地区には今も蚕室造りの家があちこちに見られる。

米沢の風穴
蚕種家倉沢運平によって開発された小県三大風穴の一つ。

丸子郷土博物館
モダンな造りの建物は、器械製糸業が盛んな昭和3年(1928)に落成した旧丸子町役場庁舎をモチーフとしている。

依水館
大正7年(1917)丸子の製糸業全盛の時期に依田社が建てた迎賓館施設。(国指定登録有形文化財、市指定有形文化財)

丸子鉄道丸子線 丸子駅
器械製糸業で繁栄した丸子を支え、地域の動脈として活躍した丸子線の丸子駅。

カネタの煙突
丸子の製糸業の繁栄と衰退を見つめた製糸工場カネタの煙突の名残。

依田社生糸の商標
丸糸で紡がれた生糸は、その品質の高さからアメリカへ輸出された。生糸に貼られた商標。



シナノケンシ株式会社 絹糸紡績資料館
大正7年(1918)創業。製糸工場で生糸にならない出殻などの副産物を利用して糸を作る絹糸紡績業を営む。平成10年、日本で最後まで操業した絹糸紡績工場としてその歴史を伝える資料館を開館。

カネワ製糸場
アメリカからの訪問団が視察した組合製糸依田社の有力企業。(現山印醸造(株)丸子工場)

蚕都上田

(明治~昭和) 上小地域

小県郡は、蚕都上田を支える後背地域であった。江戸時代、蚕種業で全国的に有名だった塩尻地区は、幕末、微粒子病に冒された西洋諸国にいち早く蚕種輸出を計り、多くの富を集積させた。その影響を受け、千曲川沿岸では養蚕とともに蚕種製造業が発達した。規模拡大した蚕種家は別所の倉沢運平のように蚕種を風穴に保存して、夏蚕、夏秋蚕に備えた。繭を煮て生糸を作る製糸業は、同じく製糸業が盛んであった諏訪・岡谷地方と和峠でつながる丸子で発達した。下村合名会社を中心とした組合製糸依田社を擁する丸子町は岡谷、須坂と並ぶ製糸都市に成長した。20数社からなる依田社、なかでもカネワ製糸、カネタ製糸が有力な製糸工場であった。糸都丸子の面影は依田社の迎賓館「依水館」、カネタの煙突、シナノケンシの「絹糸紡績博物館」等に見ることができる。



工業百年記念公園
器械製糸業の町 丸子の繁栄の礎を築いた下村亀三郎ら6名を称えた記念碑が建立されている。



丸子町の製糸業の分布 昭和6年(1931) 組合製糸依田社の繁栄で知られた丸子町は製糸都市であった。

基図 「小県郡及上田市地図」 昭和5年発行 信濃教育会小県上田部会。
資料 「大日本蚕業歴史画」(上田市立博物館)
「依田社生糸商標」(丸子郷土博物館)
「佐藤尾之七郎宅」(佐藤一助氏)
「上田市街図(丸子町明細図)」(上田市立博物館)
「上田市誌」15巻16巻28巻、上田市誌編集委員会編(上田市)
「上田歴史地図」尾崎行也・佐々木清司編(郷土出版社、昭和58年5月9日)
「蚕都上田ものがたり 蚕種業を中心として」(上田小県近代史研究会編集・発行、平成20年11月15日)
「しおじり」塩尻地区近代化遺産活用ガイドブック編集委員会編(上田市教育委員会、平成15年3月1日)
「蚕室造りの民家」竹内秀夫作成(平成15年3月)
*その他画像は全て蚕都上田プロジェクト

